

# 審議会等の会議結果報告書

課所名

生涯学習課文化センター

会議名 令和6年度 第2回諏訪市文化センター運営検討委員会

開催日時 令和6年8月30日(金) 16時30分～19時15分

開催場所 諏訪市文化センター2階 第3集会室

出席者 【出席者】高見 俊樹委員長、石城 正志副委員長、二村 悟委員(リモート)、宮嶋 孝枝委員、木村 修子委員、河西 風花委員、高津 璃子委員、金子 雄二委員、石田 名保子委員、山田 佳子委員、宮坂 寿子委員  
三輪教育長、細野教育次長、五味課長、小林課長、関沢係長、守屋館長、福田主査、今井みどり教育委員(オブザーバー)

【欠席者】 中島 昌之委員、三澤 凜委員、牛越 雅紀委員、小山 美奈委員

【傍聴者】 一般 2名、新聞記者 3社

資料 資料①: 第2回諏訪市文化センター運営検討委員会 次第  
資料②: 第2回諏訪市文化センター運営検討委員会 説明資料  
別紙①: グループ表  
参考資料①: 第1回諏訪市文化センター運営検討委員会 会議録

協議議題(内容)及び会議結果(要旨)

## 開会前 施設見学

### 1、開会

### 2、教育長あいさつ

### 3、会議事項

#### (1) 第1回運営検討委員会に対する委員からの意見等について

<事務局より資料に基づき報告>

<質疑・意見> 特になし

#### (2) ワークショップについて テーマ: 「生まれ変わる文化センターでやりたいこと、楽しみたいことは？」

<事務局より資料に基づき報告>

##### ○目的と全体スケジュールについて

・ワークショップを通して、委員の皆様同士の連携を深めることや、実体験を伴う意見・アイデアを密に共有・協議していただくことで、「文化芸術活動の拠点として駅周辺の魅力向上」を目指す文化センターと一緒に考えて創り上げていく。

##### ○全体像

・今回は、理想、アイデアなど理想検討をしていただく。

##### ○タイプ分け

・一般的に、夢想家(ドリーマー)、現実主義者(リアリスト)、批評家(クリティック)の3タイプに分けられるが、是非今回は夢想家(ドリーマー)として自由なアイデアを出していただきたい。

##### ○今回のテーマ

・「生まれ変わる文化センターでやりたいこと、楽しみたいことは？」

・できるだけたくさんアイデアを出していただきたい。

### ○今回のルールとキーワード

・ルールは3点。①前向きな議論をする。②全員が参加する。③発想を転換する。

・キーワードも3点。①視野を広げ、「賑わいの創出」という視点を持つ。②委員同士の連携を促進する。③それぞれの個人や団体の利益を主張するのではなく、そのグループで集まったことによって出てくるアイデアを大事にする。

### ○今回の方法

・3グループに分かれて実施する。各グループで役割を決める。時間は50分間。

・各グループごとに発表していただく。

### ○各グループの発表

#### ○二村委員からのコメント

・聞いていて楽しい内容だった。

・私の視点でお伝えしたいことは、歴史的建造物を継承していただきたい。そのために利活用をしてほしいし、若い人たちにも触れてもらいたい。そこで愛着を持ってもらい、地域愛や地域に関心を持つことで東京に出ても諏訪に戻ってくることに繋がっていく。そうすると、歴史的建造物や文化の維持発展に繋がっていくということになると思う。

・グルーピングの内容はとても面白かった。グルーピングの仕方を変えてみると何か発見がありそうなのと、グルーピングの内容を組み合わせること、また、そのグループの内容とグルーピングした言葉を単純に置き換えたりしながら、違う言葉にグルーピングした内容を変えてみる方法でも、より具体化しそうなものがあると感じた。

・今後、5W1Hを考えながらやっていくとより具体化していくと思う。例えば、子どもの話題が出てきたが、子どもの年齢は幅広いので、未就学児が楽しめる読み聞かせの場を作りたい、小学校低学年の子が高学年の子に勉強を教えてもらうような場にしたなどがあると、必要な備えや規模が見えてくると感じた。

・気軽に演奏できる場という意見は本当にいいなと思って聞いていた。ホワイエと前庭を円滑に使って欲しいということはずっと思っていることである。例えば、国際基督教大学だと古い建物で練習していて、その姿がとても良く、日常的に練習していることをむしろ見せることで、人と人が繋がっていくような場になるということもあると思う。

・市の説明の中に未来を考える、理想を考えるという説明があり、一方で生まれ変わる文化センターでやりたいことという話題提供があったが、おそらく考え方として2種類含まれているだろうと思って聞いていた。生まれ変わる文化センターでやりたいことというのは、現在の姿を考えた上で、こうやって利用したらいいなという立ち位置でのあり方であり、この考え方だと人間の場合は悲観的になりやすく、話題としては小さくなる傾向があると思う。一方で、現状はともかく、未来の文化センターはこうなって欲しいというような未来志向の考え方がある。現在は各論だが、大きなテーマや方向性があると、各部屋をこういうふうに使った方がいいのではというアクションが考えやすいのかもしれないと思った。

・小さな活用がたくさん出ていたが、全部やってみたらいいのではないか。歴史的建造物の活用の計画ということで言うと、実は実現可能な小さなことをたくさん積み重ねていくということが基本である。なぜかという、例えば未来を想定して古民家みたいなものを設備投資してカフェにしたとして、失敗したとすると歴史的建造物は元に戻らなくなってしまう。すごく小さなこと、簡単にできそうなことを繰り返して、上手くいったという達成感みたいなものが重要で、考えたことをやってみて繰り返しながら、どういう使い方がいいのかを考えていくことが実は歴史的建造物の活用の計画では、一般的な考え方である。この場合、大きな考え方として二つあって、歴史的建造物の良さをどう利用するかが前提にはなるが、一つは建物の中を利用していこうということ、もう一つは外から見たり外と中をつなぐ場を利用して検討するということがある。この両方の視点が出されていて歴史的建造物の活用としてはありがたいと思いながら聞いていた。

・市の視点から駅周辺の魅力向上という非常に難しい前提があったが、これは文化センターと駅を関係付けて考える

という面的な視点や、或いは点と点を線でつなぐ視点ということで、日本遺産や世界遺産のようなストーリーの構築にも繋がっていくことかと思う。今回は室内だけのワークショップなので、フィールドワークで文化センターから駅までの身近な環境調査みたいなものやっけていく上で、文化センターがどうあると地域全体がどういいのかということが見えてくると思う。皆さんが考えたアイデアをもとに、文化センター自体をフィールドワークしてみるとより立体的にさまざまなアイデアが出てくるのではないかな。

・余談だが、学生が立ち寄りという意見がとても良いなと思った。私が関わった赤レンガの建物で横にベンチが置いてあるが、ここに中学生とかが来てお弁当を食べることがある。やはり若い時にそういうことに触れることがとても良い姿だと思った。リンゴ箱の話もあったが、静岡の茶工場では、茶箱をステージにしている。また、先ほどショーの話もあったが、歴史的建造物である東京にある小さなビルに箱を並べて着物ショーをやっているのを見たことがある。

・花道を利用したほうが良いという意見もあって、文化センターの持っている良さを発見してくださっていると感じた。やはり歴史的建造物の良さや魅力をどんどん引き出していってもらって、未来につなげていけるようなものになったらいいなと思ったし、未来は大丈夫そうだなということも感じた。

#### <質疑・意見>特になし

#### 4、その他

(事務局)

- ・次回の運営検討委員会は、10月上旬を予定している。
- ・日程と内容については、事務局で調整をさせていただいた上で、別途通知させていただく。
- ・会議資料についても、事前に送付させていただくので、ご覧いただいた上で次回の委員会に出席いただければと思う。

#### 5、閉会